

当事者会定例会(令和4年4月～11月)で交わされた意見のまとめ(分類別)

※内容において、一部分類の重複有

No.	分類	内容
1	①啓発・広報	障がい者の生活や困り事について知ってもらいたい。
2	①啓発・広報	内部障がい者は外見では障がい者であることが分からないため、配慮を受けにくい。
3	①啓発・広報	公共交通機関について、人によって対応が様々。合理的配慮に欠ける。
4	①啓発・広報	合理的配慮やバリアフリーについて啓発しておきたい。
5	①啓発・広報	障がい福祉サービスに対する世間の認識が低いと感じる。
6	①啓発・広報	当事者会に来られない方の意見も吸い上げて、世間に発信していきたい。
7	①啓発・広報	地域で暮らす中で、困った時に配慮することが当たり前の環境づくりをしたい。
8	①啓発・広報	いつ自分が障がい者になるか分からない。単発的な啓発ではなく、継続的な情報発信が必要。
9	①啓発・広報	当事者会としての取り組みを発信し、当事者会を知ってもらいたい。
10	①啓発・広報	吹田市内の障がい者の思いをまとめ、情報発信する。
11	①啓発・広報	新型コロナの対応を通じて、障がい者として、より一層声を上げていく必要性を感じた。
12	①啓発・広報	障がいに対する理解が深まらないことが、諸制度が広がっていないことや社会的障壁に繋がっていると感じる。
13	①啓発・広報	シンポジウム等を行い、市民との繋がりを持てる場を構築していきたい。
14	①啓発・広報	感覚過敏であり、青白い蛍光灯は大変つかれる。(視覚支援が充実しているスウェーデンでは、配慮がなされて自閉症の方にとって過ごしやすい環境提供がなされている。)
15	①啓発・広報	各党派の議員が障がい者のことをどのように考えているか、アンケートなどで聞き取ってはどうか。
16	①啓発・広報	人工透析者は外見では障がい者と分からない、ヘルプマークを付けていても、電車で席を譲られた経験がない。
17	②ネットワーク	各党派の議員が障がい者のことをどのように考えているか、アンケートなどで聞き取ってはどうか。
18	②ネットワーク	障がい者同士の横の繋がりを全く感じない。
19	②ネットワーク	若い障がい者の困り事が全く聞こえてこないの、知りたい。
20	②ネットワーク	地域で相談できる場所がほしい。
21	②ネットワーク	地域と障がい者の繋がりを作っていきたい。
22	②ネットワーク	障がい児の親同士の繋がりが希薄なのでなんとかしたい。
23	②ネットワーク	障がい者の声が行政に届いていない。
24	②ネットワーク	視覚障がい者の方が、地域のどこに住んでいるのか分かりづらい。
25	②ネットワーク	ガイドヘルパーを通勤でも使えるようにしてほしい。
26	②ネットワーク	大阪府全体が知的障がい児の保護者同士の繋がりが希薄な傾向があると感じる。
27	②ネットワーク	知名度の高い方、発信力のある方に講演いただき、障がい者の困り事について理解を広げたい。
28	②ネットワーク	バリアフリー化が進んでも、心のバリアフリーが広がっていない現状がある。
29	②ネットワーク	座談会の時のような、お互いの障がいに関する話をいろいろと話し合うことが必要だと感じている。
30	②ネットワーク	障がい者同士で繋がりを持ち、何ができるを考え、議論していきたい。
31	②ネットワーク	他の団体が行っている普及啓発を把握し、様々な障がいについて目を向ける契機を作っていきたい。
32	②ネットワーク	障がい児の親御さんは、自身の子の育児等で手いっぱいの状況。親御さんへの支援として学習会が必要。
33	③差別解消・権利擁護	人工透析者は外見では障がい者と分からない、ヘルプマークを付けていても、電車で席を譲られた経験がない。
34	③差別解消・権利擁護	視覚障がいについて、読み書きができないことに差別がある。
35	③差別解消・権利擁護	コンビニの入店拒否など、差別的な心無い一言を言われる。

No.	分類	内容
36	④当事者	いつも当事者が置き去りにになっていることが多いと感じる。
37	④当事者	当事者として譲れない・大切にしたいことを持っておきたい。
38	⑤資源不足	障がい児のサービス事業所について、送迎なしの事業所がほとんどで、サービスを利用できない。
39	⑤資源不足	吹田市内に医ケア対応のショートステイ先がない。
40	⑤資源不足	本人のニーズに応じたフォロー体制が十分であれば、障がい者は生きやすいと感じる。
41	⑤資源不足	ニーズに応じた事業所・通所先が中々見つからない。
42	⑤資源不足	支援学校に通っているが、下校時に送迎をしてくれる事業所がない。地域によるサービス利用のアクセスが異なる。
43	⑥制度	障がい福祉制度について、内容が難しく、理解しづらい。
44	⑥制度	ガイドヘルパーをもっと利用したい。
45	⑥制度	ガイドヘルパーを通勤でも使えるようにしてほしい。
46	⑥制度	通学支援は保護者や親族が行うことが通念だが、制度として導入してほしい。
47	⑦出生から学齢期	通学支援は保護者や親族が行うことが通念だが、制度として導入してほしい。
48	⑦出生から学齢期	支援学級在籍の児童は通常学級を併用した際に、通常学級児としてのカウント対象外となり、35人学級の人数に含まれないため、(1学級あたりの人数が多くなり、)担任の目が行き届いていない。親と先生のコミュニケーションが希薄になる。
49	⑧暮らし・就労	もっと障がい者が一人暮らしができるようになってほしい。
50	⑧暮らし・就労	車椅子での移動では、踏切等の段差が通りにくい。遮断機の間隔も短く不便。
51	⑧暮らし・就労	視覚障がい者の場合、就労先が少なく、経済面の安定が図りにくい。高い割合で生活保護を受給している。
52	⑧暮らし・就労	高次脳機能障がいがある方は、疲れやすく、外出が十分に出来ない人もいるのが現状。
53	⑨親亡き後	障がい者の親なき後の問題について考えていきたい。
54	⑩防災	防災について、障がい者や高齢者の困り事を明確にしておく必要があると感じた。